

音 楽		教出（教育出版株式会社）
総 評		<p>身に付けたい知識・技能は楽曲の最初に、共通事項は「音楽のもと」に、それぞれ掲載があり、主体的な学びの実現に配慮されている。</p> <p>被災地の人達が音楽を通して心をつないだ例や、障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめるような歌（手話）が扱われ、豊かな心の涵養に配慮がある。</p> <p>学年の目標や内容を踏まえ効果的な指導を行うには、目次の配置の仕方からはわかりづらく配慮を要する。</p> <p>児童自らが発見し気づいていくには説明が多い。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材で学ぶべき共通事項がめあてや紙面の右上に表示されていることで、児童も教師も意識しながら学習を進めることができる。③ ○ 被災地である福島県、宮城県、熊本県の人達が、音楽を通して応援の気持ちを伝え心をつないだ例が示されている。人々が音楽活動を通して心を寄せ合ってきた様子が伺え、「音楽にできること」について考えるよう配慮されている。②(6年 P40. 41) ○ 「さんぽ」の楽譜と共に手話がイラストで紹介されている。障がいの有無にかかわらず全学年で楽しめる工夫がなされており、豊かな心の涵養を目指すよう配慮されている。⑤
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年 P. 4や2年 P. 2のように、音楽表現や活動内容がわかりやすく表わされているために、どの児童も適切に安心して取り組むことができる。③ ○ 表現および鑑賞領域において、思考判断し表現する一連の過程について、まなびナビのコーナー等を用いて工夫されている。⑦ ○ 和楽器について取り上げ共通教材や鑑賞教材と関連させている。⑤
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての文が学ぶポイントの部分の色を変えているために、文字の読み取りが苦手な児童も見つけやすい。 ○ 特に、共通教材の写真や絵の取り扱いが美しく歌詞からイメージしやすい。③
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ かえるのマークを使って、以前学習したことを思い出し、内容が定着するよう工夫されている。② ○ 写真や解説等の資料を多数掲載して、児童が興味を持ち学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きのページに有名なアーティストから子どもたちへのメッセージが記されている。また、写真や解説等の資料を多数掲載して、児童が興味を持ち学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ いずれの学年も共通事項の習得は期待できるものの、その学びが何につながるのか、意義は何かについてのイメージがもちにくく、音楽科の知識・技能の習得のみになってしまう可能性がある。①②
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が音楽的な見方考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わることが促されるようなしかけが、やや少ない。① ○ 音楽づくりの説明を理解することに時間を要し、それによって、学びの楽しさを感じにくい。④（6年 P46. 47） ○ 明確な進め方を掲載することで説明の文章表記が多くなり、指導者にとって児童自らが発見したことや気づいたことを発表する活動に対し配慮を要する。⑤
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 折り込みのページ(各学年)や透明シート(5年 30・31 ページの間)の必要性があまりない。④ ○ 4年 P44 のサムルノリのチャンゴがどれであるのか明確でない。③
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次の配置の仕方からは学年の目標や内容を踏まえて効果的な指導が行われるよう構成・配列されているのかがわかりづらい。目次にメリハリが乏しく見つけにくい。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 扱う内容が盛り沢山で特に高学年は年間授業時数に修めることに配慮を要する。①

音 楽		教 芸（株式会社教育芸術社）
総 評		<p>主体的・対話的で深い学びの実現に向け、友達との対話を通して学べるように工夫されている。</p> <p>1年間の学習の見通しや、次の学年につなげられるように6年間を通して系統立てた配列になっており、優れている。</p> <p>巻頭の「学びの地図」や巻末の「振り返りのページ」が配置され、基礎・基本の知識や技能の定着が図れるよう全学年を通じて工夫がある。</p> <p>共通事項については、発達段階を考慮したものとなっているが、意識づけが進むような表記について少し工夫を要する。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	○ 「ちいきにつたわる音楽を調べよう」（4年28・29ページ）や「打楽器でリズムアンサンブル」（5年30・31ページ）、「ラバズコンチェルト」（6年18・19ページ）等において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業が展開するように工夫されている。③
	2 内容の取扱い	<p>○ 階名と音の高さを風船で示し、児童が視覚的に音階を理解できるように工夫されている。（1年P39, 41, 57・2年P21, 25, 27・3年P9, 11, 13）⑥</p> <p>○ 表現及び鑑賞において、思考判断し表現する一連の過程について、進め方やポイントを示したりワークシート等を用いたりして工夫されている。（4年P15, 37 5年P46 6年P41）⑦</p> <p>○ 5年P30～33の音楽づくりの進め方が順序を追って説明されているために大変わかりやすく、児童が「やってみよう」と思えるものである③</p> <p>○ 郷土芸能や、和太鼓・エイサーについて取り上げられている。⑤</p> <p>○ 2年、3年、4年には常時活動の例を示し、音楽の力が自然に身に付くように工夫されている。③</p>
	3 外的要素	<p>○ どの学年も図が大きくて見やすく、文字も読みやすい。③</p> <p>○ 写真が鮮明で、楽しい雰囲気となる色遣いの配慮がある。挿絵のキャラクターに役割を持たせているので、学習の方向性が伝わりやすい。③</p>
	4 構成・配列	<p>○ 目次が学期ごとの配列、単元ごとに色を変えており、さらに各ページ左上の色の面積も大きく使われているためにページがめくりやすい②</p> <p>○ 各学年P2～3に1年間の目標や学習の見通しが持てるように工夫されている。①</p> <p>○ 題材がすべてのページに表記されており、いつでも何の学習をしているのかがわかる。②</p> <p>○ 社会科とリンク（4年30・31ページ、6年50・51ページ）、国語科とリンク（6年70・71ページ）等、教科等横断的な視点から効果的な指導が行われるよう構成されている。①</p>
	5 資料・その他	<p>○ 挿絵に様々な手法を用いた作品が使われており、児童が興味を持ち学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②</p> <p>○ 鑑賞活動で聴いた曲の作曲者紹介は写真も大きくわかりやすい。②</p>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	○ 特になし
	2 内容の取扱い	○ 6年P37の指揮者資料も指揮者は男性であるというイメージを固定した概念をもたせる恐れがある。⑤
	3 外的要素	○ 共通事項の扱いについて、内容は発達段階を考慮したものとなっているが、意識づけが進むよう表記の仕方に工夫が必要である。②
	4 構成・配列	○ よく考えられており特記なし
	5 資料・その他	○ 5年（P12）のこいのぼりに焦点をあてた写真であるために、こいのぼりを知らない児童にはどのように飾られているのかの様子が不明確である。①